

発見! 全国の **ほ**っとポイント

長期的な視野に立ち 地域に貢献する医療を

千葉県ちうがね東金市 医療法人社団ケア・ユニティ ふるがき糖尿病内科医院

医療法人社団ケア・ユニティ ふるがき糖尿病内科医院理事長 古垣齊拡先生

ふるがき・なりひろ 鹿児島大学医学部卒業。鹿児島生協病院で研修の後、奄美大島で離島医療に従事する。千葉県立東金病院内科を経て2013年にふるがき糖尿病内科医院を開院。日本内科学会総合内科認定医。日本内科学会総合内科専門医。

1000人の患者さんの
受け皿となる決意で

千葉県東金市のふるがき糖尿病内科医院は、糖尿病や甲状腺を中心とする専門医院です。院長の古垣齊拡先生は鹿児島県の出身。糖尿病専門医の資格を取るために2007年に千葉県に移り住み、県内の総合病院の内科に6年ほど勤務しました。資格取得後は鹿児島に戻ることを考えていましたが、勤務先の病院の閉院という事情があって、この

地に留まることを決意したと言います。

「この地域は慢性的な医師不足で、糖尿病の専門医は1人か2人という状況でした。そのためどんどん患者さんが回ってきて、病院閉院の頃には1000人くらいが私の外来にかかっていました。1000人の紹介先もなかったですし、患者さんからの要望もあったので、自分が受け皿になろうと当院を立ち上げました」。

患者さんは東金市だけでなく周辺の複数の町からも訪れ、その数は現在2000人近くに増えました。2015年11月には隣町の大網白里市おおあししろに分院を開設しました。分院は心臓病と糖尿病が専門ですが、内科全般の診療や健康診断も行っています。

「ここでは一人の医師の果たす役割は都会よりも大きい。私の場合は糖尿病という一分野を中心にして、ここで困っている人をできる限りよい状態に導く、それが自分の役割と考えています」。

目標は質の高い医療を
提供し続けること

糖尿病では合併症を予防することが最も重要です。その点、充実した検査機器を備えていることは大きな強みといえます。

「当院ではCTやレントゲンなど大病院とほぼ同じような検査を受けることができず。検査をきちんと行い、スクリーニングをした上で、合併症が進んでいる方や、がんが疑われる方は大病院に紹介するという流れをつくっています」。

半年ほど前にCTを導入して以来、がんの疑いで病院に紹介した63人ほどのうち、確定した人は23人。それまでは年間2、3人程度だったことと比べると、差は歴然と目に見えます。こうした成果を目の当たりにして、スタッフも改めて検査の重要性を理解するようになり、患者さんの検査に対する認識も変わってきたと言います。

合併症を正確に判断して評価し、患者さんに還元する。こうした質のよい医療を提供し続けることが、長い目で見ると地域を守ることにつながるといえるのが、古垣先生の信念です。

「ひとたび合併症を発症すれば、患者さんや家族の抱える負担は計り知れません。同時に、医療費の増大によって地域社会に多大な影響を及ぼします。だから、ただ診察をして薬を出すだけでは終わらない。当院の担う役割は大きいのです」。



左: 患者さんにストレスなく過ごしていただきたいという思いから、待合室はゆったりとした環境づくりを心がけている。右: 飾り棚には陶芸家である実弟の作品が並ぶ(写真は分院の待合室)。